



日時 平成28年12月17日(土) 午前9時00分～11時30分

場所 おおいゆめの里

講師 一寸木 肇 おおい自然園 園長

参加者 16人

サポーター5人



これから冬の生きもののさがしを始めます。

今日は、とても良い天気です。このような天気のことを何と言うのでしょうか？

快晴というのですね。

山の景色も大変よく見えます。

と



ところで、今日は朝起きたときはとても寒かったですね。今、何度でしょうか？

☑「7℃!」「8℃!」「10℃」

温度計で確認してみましょう。

正解は7℃です。正解した人がいましたね。

ちなみに、朝6時では、マイナス3℃でした。

霜柱を観察しよう



花壇にたくさんの霜柱を見つけました。

ところで、霜柱は、昨日雨が降っていないのに、どこから水がきてどうやってできるのでしょうか？

土の中の水分が凍ってできたのですね。



ちなみに、水は0℃ちょうどで氷になります。
また、氷が溶けて水になる温度も0℃です。
0℃の水と氷があるのです。不思議ですね。





農業用の貯水槽に厚い氷が張っていました。
厚さを測ってみると6mmでした。
「氷の中に虫の死骸がいるよ。」

子どもたちはいろいろなものを発見します。

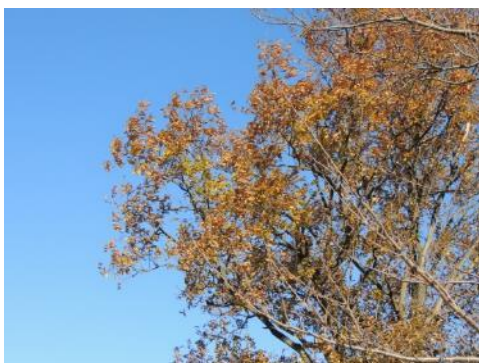
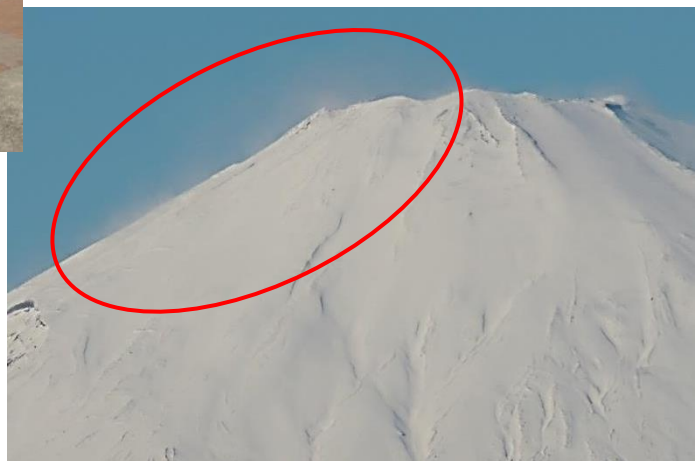


富士山の山頂を双眼鏡で見よう



今日は本当に良い天気で、富士山がとてもきれいに見えます。
富士山の山頂を双眼鏡で見ましょう。

山頂に雪が舞っていますね。 強い風が吹いていることがわかります。



今いる場所も、風が強く、木から落ち葉が舞っています。こういう冬の風のことを「木枯らし」と言います。

黒い虫のかたまりは何？



サクラの幹の割れ目に、黒い虫の群れを見つけました。ヨコツナサシガメです。

ヨコツナサシガメは、夏に卵を産み、冬は集まって越冬します。

よく見ると体に赤いつぶつぶがありますが、これは体についた赤いダニです。

背中周りの模様が横綱の綱に似ていることからヨコツナサシガメと名づけられました。

人を刺すことがあるので触らないでください。

ダンゴムシとワラジムシ



サクラの木の別のすき間で、落ち葉の下にダンゴムシとワラジムシを見つけました。

ダンゴムシとワラジムシはエビやカニの仲間で湿ったところにいます。

足の数は何本でしょうか。

左右両側に7本ずつあり、全部で14本あります。





ダンゴムシとワラジムシはよく似ていますが、ワラジムシは丸まりません。
ワラジムシは、お尻のところに2本突起があります。



イラガのまゆ



子どもたちが枝についている丸い卵のようなものを見つけました。これは何でしょうか？

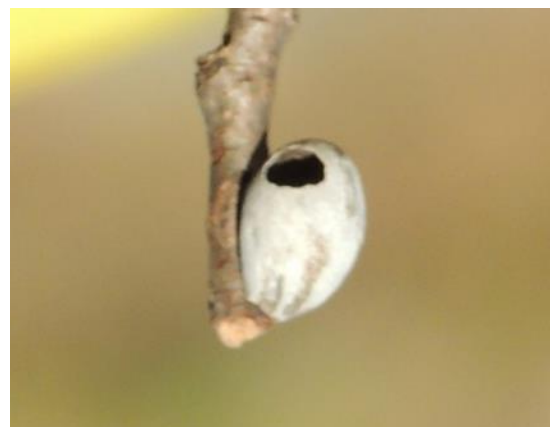
これはイラガのまゆです。

まゆの中には幼虫とさなぎの中間のブヨブヨとした半蛹（はんよう）が入っています。

ところが、このイラガのまゆには横に大きな穴が開いています。

この穴は、恐らく寄生バチが開けたものです。寄生バチは、イラガのまゆに穴をあけ、まゆの中に産卵し、孵化した幼虫はイラガを食べて育ちます。

イラガは寄生されないで育つと、まゆのてっぺんを大きくくり抜いて誕生するのですが、寄生バチは、まゆの横など、全く異なる場所に小さめの穴をあけてイラガのまゆから誕生します。



イノシシの生活を想像してみよう



竹やぶの手前に、土が掘られていて、ぬかるんだ場所があります。

これは、イノシシが体についた虫を落とすために泥浴びをした場所で、ぬた場と言います。

近くの木に、体をこすった跡が見られるかもしれません。



子どもたちが竹の下の方に泥がついていることを発見しました。

これはイノシシが体をこすった跡ですね。

ほかの場所にはないでしょうか。

すぐ近くの倒れた木に泥を落とした跡がありました。

泥の跡の高さを測ってみると、65 cmでした。



葉の中央に茶色いかたまりを発見



この木は、バショウという植物で、もともとここにはありませんでした。誰かが植えたものです。

葉をよく見ると、何か気が付きませんか。

葉の中央に茶色いかたまりがあります。これは何でしょうか？

- ① キノコ ② ガ・チョウ
- ③ 落ち葉 ④ たね

正解はチョウです。

このチョウは、ムラサキツバメというシジメチョウの仲間で、集団越冬しているのですね。何匹くらいいるのでしょうか。

36匹のチョウが確認できました。



ノウサギのふん



草の中に丸くて黒いものを見つけました。動物のふんのようです。

これはノウサギのふんです。

ゆめの里にはイノシシやノウサギなどいろいろな野生動物がいますね。

シダの裏側を観察してみよう



ここは、杉林の中です。いろいろなシダがあります。

今日はシダの裏側を観察してみましょう。

花が咲く植物は、花が終わると種子ができて種子で増えますが、シダには花が咲きません。

シダは種子のかわりに胞子をつくって増えます。

葉の裏にあるブツブツしたものは胞子が入っているふくろで、胞子のうと言います。胞子のうの中には、たくさんの胞子が入っています。そして胞子のうがはじけて胞子を飛ばします。



シダ植物は 4 億年前からありました。恐竜がいたときにもありましたよ。そのころは人間はまだいませんでした。

大昔に地球上に繁っていたシダ植物は化石になってその後石炭になりました。

シダ植物は 4 億年も前から命をつないで今も生きているのですね。

落ち葉のはなし



冬は落ち葉がたくさん落ちます。ゆめの里では育て隊の方々が歩道にたまった落ち葉をかき集めて、通りやすくする作業をされていました。ありがたいですね。



ところで、落ち葉には大切な役割があります。どんな役割があるのでしょうか。地上に落ちた葉は次第に細くなり腐りながら土と混じり、栄養のある土へと変わっていきます。春になると新たな植物の誕生や植物の成長に役立っています。このことを農家の人は利用して落ち葉を集めて堆肥という肥料を作り、田んぼや畑に使いました。昔はたくさんの方が落ち葉かきに山へ来たので里山は落ち葉が少なく、きれいだったという話を聞いたことがあります。



もう一つ落ち葉には大切な役割があります。冬は一日の気温が大きく変わるのに比べると落ち葉の下は温度の変化が少ないのです。それで、昆虫やトカゲなどの生きものは、落ち葉や根の下や土の中にもぐって寒い冬を過ごします。落ち葉の下に何か生きものがいるか探してみしょう。

今日出会ったできごとを新聞にしよう



胞子のう



胞子のうから飛び出した胞子



今日は、寒い冬でも生きものたちは、
いろいろと工夫をして生活している
ことが分かりましたね。
また、シダ植物についてたくさん
のことを学びました。